



より良い生活を実現するために まずは東日本ユニオンに加入を

JR東日本労働組合新潟地方本部
星山執行委員長 年頭あいさつ

組合員の皆さん、新年明けましておめでとうございませう。日頃より新潟地方本部の取り組みにご理解、ご協力頂いていることに感謝します。またJR新潟支社で働く皆さん、新潟支社に所属する皆さん、新年明けましておめでとうございませう。

強い寒波に繰り返しも通勤時や勤務の取扱

見舞われ、大規模な輸送障害を生じるなど、厳しい冬を迎えた中で、安全輸送という鉄道の使命を全うするため日々奮闘している皆さんに敬意を表します。

既に今冬期においても通勤時や勤務の取扱



うことです。

就業規則に定めてあるけれども、本人が黙っていても適用されないルールもあり、会社は教えてくれません。

不適切な取扱や、納得し難い対応などがあつた場合には、私たち東日本ユニオンに相談をしてみてください。

東日本ユニオンに集まり係数を取り戻そう!

私たち東日本ユニオンは、2022年度年末手当として、基準内賃金の3.7ヶ月分を要求しました。

昨年の支給月数2.0ヶ月分と比べて「高すぎる」「出る訳がない」と思った人もいます。

コロナ禍によりJR東日本の経営が赤字となつて2年間、私たちは黒字化実現のために様々な工夫と努力を重

得られていた賃金よりも低い賃金で働き続けることになりました。そこに加えて昨年度の年末手当は夏・冬をあわせて4.0ヶ月の支給でした。住宅ローン、子供の養育・教育費用などのやりくりには、本当に頭を悩ませているという声を多く聞きました。

コロナ以前、過去最高益を更新し続けながらも、「安定支給」を唱える経営側は年間の支給月数を据え置き続けました。だからこそ社員も、年間6.0ヶ月支給で生活設計を立てる様子が戻りました。

私たちが働く環境は劇的に変化しています。庄内、長岡に続き、今年3月には新潟営業統括センターの発足により新潟支社における営業の現業機関は3職場に集約されます。

同時に車両検修職場は新潟車両センターに統合、運輸区でも行路や業務の移管に伴い新潟運輸区への集約が進むと共に、駅や企画業務との融合が更に進められるようになっています。

設備系統では支社企画業務と現業機関の業務を融合して設備技術センターを発足するな

になりまし。賃金を削られても「赤字だから」という会社の声に耐えながらようやく実現した黒字化です。生活するために最低でも年間6.0ヶ月分が必要で、そこに届かせるためには年末手当は3.7ヶ月分が必要という私たちの主張に対して、職場の多くの皆さんから理解、賛同の声をいただきました。2023年の春闘もはじまります。2年前から削られたままの定期昇給2係数を今こそ取戻しましょう!

サービスをはじめ様々な視点から団体交渉を繰り返してきました。交渉後に会社を取り扱いは改めたり、改善を図られたりしたものは沢山あります。労働組合に加入する仲間が増えればその分だけ要求の実現に近づきます。

12月に加入した若い仲間も「言いたいことを言える土俵に立ちたかった」と言ってくれましたが、まさに労働組合とはそのような存在です。会社側と交渉を通じて労働者の意見を直接交渉できるのは唯一労働組合だけです。

労働組合に興味・関心をもつたら、職場や業務など疑問や不満があつたら、まずは東日本ユニオンの組合員に声をかけてみてください。

新潟地方本部はいつでも皆さんの加入をお待ちしています。皆さんのご健勝を祈念しまして年頭の挨拶とします。

